

音更町総合計画推進委員会会議結果（要旨）

会議名	第5回音更町総合計画推進委員会
開催日時	平成29年2月16日（木） 午後4時から午後4時50分
開催場所	音更町役場庁舎4階401・402会議室
委員出席者	津久井委員長、林委員長職務代理、河田委員、小林委員、杉原委員、高橋委員、土田委員、畠委員、森下委員、吉川委員
町側出席者	傳法企画財政部長、渡辺企画課長、高田企画調整係主任、松島企画調整係主事
傍聴者	北海道十勝総合振興局地域創生部地域政策課主査（地域創生） 山田氏 十勝毎日新聞社編集局 鈴木氏
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 議件 (1) 重点施策及び総合戦略施策の審議結果の取りまとめについて 4 その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画推進委員会審議結果 ※第1回目で配布した資料を使用 ・第5期総合計画推進管理評価調書 ・音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書 ・(資料1) 音更町総合計画推進委員会について ・(資料2) 第5期総合計画推進管理評価調書について ・(資料3) 音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進管理評価調書について ・(冊子) 第5期音更町総合計画、音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略、まちづくり町民アンケート結果報告書
会議結果	下記のとおり
出された主な意見等	<p>■第5期総合計画重点施策の審議結果の取りまとめについて</p> <p>委員：重点項目3の3点目の防犯と4点目の子育て世帯向け賃貸住宅に関して、順調に進んでいる施策だがあえて書き加える必要があるのか。</p> <p>事務局：街路灯や防犯灯の整備については、暗くて危険な通学路等が怖いという意見があった。子育て世帯向け賃貸住宅は、小学校付近の空き家対策を兼ねて一軒家にも拡充してはどうかという意見を入れた。</p> <p>委員：重点項目7の4点目のワークショップについて、1回きりの評価や検証ではなく、関わったワークショップのメンバーが、状況を見ながらずっと継続的に関わっていくようなことを提案したかった。</p> <p>委員長：もう少し言葉を足して提言内容を正確に表すと良い。</p>

事務局：例えば、「実施した計画の評価や検証を継続的に行っていく」というような修正でよろしいか。

委員：はい。策定段階と、利用段階ではワークショップの目的が変わってくる。

委員長：ワークショップで想定していたことと実際は違うところがあれば、もう1回ワークショップの中で揉まれて次に繋がっていくということになるかもしれない。

委員：重点項目4の2点目、少人数学級の町で独自に5人の採用というのはどういうものか。人数が多いところに補完するという意味合いか。

事務局：教員資格は持っているけれども北海道に採用されなかった人を対象に募集し、大規模校に配置して少人数学級に対応できるようにしている。町から給与を支給し、その1年間の中で北海道の採用試験を受けていただく。1年ごとの募集だが、継続して応募があれば、2年目、3年目ということもある。

委員：聞いたところでは、まだ同じ学校の中でもばらつきがあるということなので、その辺りを少しずつ見極めながら今後も増やしていくということか。

事務局：これ以上増やすということにはならない。町の単独事業なので、これ以上増やすと町の予算も出てくる。継続されるかどうかは、ふるさと寄附金の財源を使っている事業なので、その兼ね合いもある。

委員：重点項目7の5点目、男女共同参画に関して、一般企業を対象にした目標指標を設定することだが、行政として、役場の中や色々な委員会や町内会ではどのように取組を進めているか。

事務局：審議会には女性が3割入るよう目標を持って取り組んでいるが、審議会の内容によっては難しいものもある。まちづくり基本条例の中でも謳っていて、総合計画の目標にもしている。

委員長：審議会や様々なところで目標を何割と設定していて、実際どうなっているか整理されている資料はあるか。相当数の会議があるので、どのくらい進捗しているのか一覧で見られると良い。

事務局：北海道へ年に1回報告しているので、その様式はある。

■音更町まち・ひと・しごと創生総合戦略の審議結果の取りまとめについて

委員長：事実確認だが、2つ目の「帯広空港の利用者の利便性を考えると、スマートインターチェンジの設置を推進していく必要がある」というところで、空港との連携ということは、空港に降りて、レンタカーやバスで高規格道路や高速道路を回って十勝川温泉に入るというルートを想定しているという理解でよろしいか。

委員：それもあるかもしれないが、十勝川温泉を利用して、その後帯広空港から他の地域へ行くのではなく、阿寒を通り抜けて釧路空港を利用することも考えられる。十勝川温泉を利用して交流人口を増やすためにスマートインターチェンジを早く設置すると、帯広空港も利用して連携が取れるのではないかと。

委員長：もう少しここを工夫した方が分かりやすい。

事務局：帯広空港の利用促進という視点もあるということを加える。

■評価方法について

委員長：何かに取り組んでそれを評価する時に、いわゆるアウトプット評価とアウトカム評価という評価の指標の取り方がある。アウトプット評価というのは、何か目標を実現するためにこういう施策を100パーセントやりましたとなると100パーセントの評価になるが、これはあくまでも手段で、最終的な目標は果たして実現できたのかというところを本来は評価しなければいけない。評価と推進がセットになっている取組をするときに、その辺りをこれからおそらく厳しく求められていくことになる。新しく計画を立てたり新しい評価指標を導入したりするときに、できる限りアウトカム評価的なものに取り組んでいただきたい。